きょうの天気
降水確率　朝 10%　昼 10%　晩 10%
気温　高 11℃　低 3℃
北の風後南の風
あす　東部　中部　西部
したまち支局　〒111-0034　東京都台東区雷門2-4-9　明治ビル5階　電話03-3844-2215　FAX03-5827-7470　Eメール sitamati@tokyo-np.co.jp
社会部東京ニュースデスク　電話03-6910-2260　FAX03-3595-6917　Eメール shakai@tokyo-np.co.jp
立川支局　電話042-524-0061　FAX042-524-0063　Eメール tama@tokyo-np.co.jp
通信局・部　武蔵野 0422-43-2134　八王子 042-656-2313　町田 042-524-0061
購読のお申し込み 0120-026-999
配達・集金お問い合わせ 03-6910-2556
広告のご用命 03-6910-2489

諸願祈願
鹿野山神野寺
☎0439（37）2351

したまち

輝く「ものづくりの荒川」

「新製品・新技術大賞」が決定

「ものづくりの街」を掲げる荒川区は、区内の中小企業を対象に創設した「新製品・新技術大賞」で、大東工業（西尾久7）が設計・製造する「耐熱シールレスギヤポンプ」を最優秀賞に選んだ。3月9日の区産業展で、ほかの受賞作8件とともに紹介し、受賞企業を表彰する。（竹上順子）

耐熱シールレスギヤポンプを前に話す井上社長＝荒川区で

◀耐熱シールレスギヤポンプ

マーブル模様のエボナイト万年筆（荒川区提供）と、日興エボナイト製造所の遠藤社長（円内）

マーブル模様エボナイト◀

区は応募のあった二十八件から、最優秀賞一件と優秀賞三件、入賞五件を選考。今後、紹介パンフレットを作り、販路拡大などの支援をする。

「耐熱シールレスギヤポンプ」はモーターと組み合わせて液体を送るポンプで、モーターの回転軸とポンプが直接つながっていないため、液漏れしない。モーターの動きをポンプに伝えるための部品に、加工は難しくても熱に強い材料を使用。三五〇度までの液体を送れるようにした。

大東工業は創業七十七年。ギヤポンプの国産一号機を作り、現在も国内シェア一位を誇る。同社製品は南極の昭和基地でも使われているという。井上浩社長(53)は「ユーザーの注文を極力断らず、要求に対して創意工夫を重ねてきたのが良かった」と技術力向上の理由を分析する。

優秀賞の一つは、日興エボナイト製造所（荒川一）が作ったマーブル模様のエボナイト素材。エボナイトは天然ゴムと硫黄から作る硬質ゴム素材で、従来品は黒一色だったが、顔料を混ぜて模様を出すことに成功した。

遠藤智久社長(44)は「発色を良くしたり、きれいな柄を出すことが難しかったが受賞できて良かった」と笑顔を見せた。ほかに精電舎電子工業とスターメディカルが優秀賞を受賞した。

地域の水害対策に取り組む「葛飾区新小岩地区ゼロメートル市街地協議会」は23日、洪水が起きた場合、自分のいる場所がどれぐらい浸水するかを多機能携帯電話「iPhone（アイフォーン）」とタブレット端末「iPad（アイパッド）」で表示するアプリ（機能拡張ソフト）の無料提供を始めた。（村松権主麿）

iPhoneかざせば　浸水予想ひと目

新小岩ゼロメートル協が提供

アプリを使うと、上半分の画面に映された目の前の風景に人の姿が表れ、洪水の想定浸水水位が水色で表示される（葛飾区提供）

アプリ「天サイ！　まなぶくん」は、協議会が東大生産技術研究所などと協力して開発した。起動すると、衛星利用測位システム（GPS）と連動し、カメラが映す目の前の映像と、その場所の防災情報を合成して表示する。

洪水情報の場合、画面の上半分に、区の洪水ハザードマップで想定する浸水の高さが、白く表示された大人（身長一七〇㌢）と子ども（同一〇〇㌢）の姿のどこまで達するか、水色で表示する。下半分は、周辺の地図をハザードマップで区分された浸水の高さ別の色で表示する。

「天サイ！」は、地震の際の火災危険度と建物の倒壊危険度を調べることができ、避難所までの方向や距離を確認する機能もある。アプリ配信サイト「アップストア」からダウンロードできる。

葛飾区は荒川、江戸川、中川、綾瀬川が流れ、面積の五割は東京湾の平均海面以下のゼロメートル地帯。協議会は二〇一一年、NPO法人や地元の連合町会、区など五団体で設立した。

器から見る徳川将軍家

日比谷で特別展

千代田区立日比谷図書文化館（日比谷公園一）で三月三日まで、江戸城跡の発掘資料を初めて一堂に展示した文化財特別展「徳川将軍家の器」が開催されている＝写真。

会場には、吹上御殿跡や梅林坂石垣で出土した陶磁器の破片や、三葉葵の紋の入った鬼瓦などが並ぶ。江戸城本丸御殿で使われていたと推定される瀬戸、有田などの陶磁器は焼けて壊れており、江戸時代の明暦の大火（一六五七年）で被災したために

荒川に新事業を

各機関話し合い　ネットワーク構築会

荒川区内の新事業の創出を目指し、事業者と大学などを結ぶフォーラム「産・学・金・公ネットワーク構築会」が二十三日、サンパール荒川（荒川一）であった＝写真。参加した中小企業の経営者ら約三十人は、支援機関との連携や資金援助について話し合った。

産業振興のため区が七年前から進める「MACCプロジェクト」

外国人住民　地震に備え

墨田で防災訓練

外国人住民を対象にした防災訓練が二十三日、墨田区の江戸東京博物館で開かれた。近隣の中国や韓国から、中南米のキューバやアフリカのブルキナファソなど、二十八カ国の計約二百人が地震への備えを学んだ。

都が主催し、今年で七回目。避難所の様子を知ってもらおうと、会場に段ボール製の間仕切りやベッドを展示し、新聞紙でスリッパや紙皿作りに挑戦した。起震車で震度7の揺れを体験したり、自動体外式除細動器（AED）の使い方を学んだりした。

外国人を支援するため、通訳など日本人のボランティアや行政職員ら百五十人も参加。都庁に設けた災害時情報センターで、外国語の問い合わせにも対応した。

地震がめったにないというブルキナファソ出身のフ・ウェンキさん(32)は「起震車が怖かった。地震が来てもどうすればいいか分からなかっ

避難所で使う段ボール製の間仕切りを体験する外国人